

## 金曜日の会 報告

1 期日 6月12日

2 参加者 O YO AK TA AR

3 内容

・学級映像「雪とけて～」(AR)

反応が薄く、四苦八苦している様子を見ていただきました。反応が薄いのは、授業中だけでなく普段も含めて教師の態度が大きく影響するのだろうと感じています。子どもとの距離感があります。また、「感動」のような子どもに実感がないような概念を扱うときは、教師が実際に感動した例を語ったほうがよいことも学びました。AR

・世界でいちばんやかましい音 授業プラン(AK)

・風切るつばさ 解釈(YO)

久しぶりの金曜日の会でした。新教材を開拓していくのは簡単ではありませんが、考えを出し合いながら学ぶ時間は、有意義なものでした。

『世界でいちばんやかましい音』では、『まさかと思いましたが、～』で問題作りをしようとしたのですが、子どもたちがそこを疑問に思うかが話題になりました。やはり、子ども出発で考えていくためには、問診を試みる必要があります。これは、新教材ならなおさらのことだと思いました。そうすれば、授業者が予想していたように、『世界でいちばんやかましい音が聞けなかったのに、王子様が手をたたくのがおかしい。』といった問題が出てくるでしょう。私も、早速試みたいと思います。

『風切るつばさ』では、クルルの『そうか、』が何に気づいたのかを考えました。その前の『こいつ覚悟してるんだ。』で、カララの『自分と一緒にいる覚悟』にクルルは気づいています。でも、その理由までは分かっていません。その理由を考えている過程で、このままではカララが死んでしまうと気づき、何としても飛ぼうとしたのでしょう。YO